

氏名	原藤 緑
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1166 号
学位授与の日付	平成 30 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	尋常性乾癬患者における血清尿酸値の検討
指導教員	教授 多田 弥生（板橋・皮膚科学講座）
論文審査委員	主査 教授 内田 俊也（板橋・内科学講座） 副査 教授 栗田 昇治（ちば・第三内科学講座） 副査 教授 金子 希代子（板橋・薬学部薬学科）

論文審査結果の要旨

主論文「尋常性乾癬患者における血清尿酸値の検討」は帝京医学雑誌に掲載予定の単著論文である。

尋常性乾癬は、全身に多発する境界明瞭な紅斑と厚い鱗屑を特徴とする皮膚疾患である。尋常性乾癬患者は健常人と比較して血清尿酸値が高いことが報告されているが、その詳細は不明である。そこで申請者は尋常性乾癬患者の血清尿酸値と皮疹の重症度（PASI）、腎機能との関連性を検討した。

方法として、2013 年 1 月～2015 年 8 月の帝京病院皮膚科初診患者のうち尋常性乾癬と診断した外来患者男性 16 名を対象とした。治療中の患者と尿酸降下薬服用中の患者は除外した。年齢は 56.7 ± 1.8 歳、PASI は 13.34 ± 6.23 、初診時までの罹病期間は 12 ± 11 年であった。乾癬以外で皮膚科を受診した年齢調整男性を対照群とした。

結果として、尋常性乾癬患者群における血清尿酸値は対照群と比較して有意に高値であった。尋常性乾癬患者群および対照群ともに血清尿酸値と eGFR には相関関係はみられなかった。尋常性乾癬患者群における血清尿酸値と PASI および腎機能には相関関係はみられなかった。

考察として、血清尿酸値が上昇する背景には、尿酸の産生亢進と排泄低下がある。乾癬は表皮細胞の増殖、分化異常を伴う疾患であり、表皮では核酸の生成が促進し、尿酸の産生が亢進して高尿酸血症になるとも考えられる。本検討においては PASI と血清尿酸値には相関関係は認められなかった。乾癬における表皮のターンオーバーの亢進が血清尿酸値の上昇に寄与する可能性はあるが主因とは考えられなかった。乾癬患者の約 40%に肥満が認められ、またメタボリックシンドロームが多いということが報告されている。本検討の乾癬患者の BMI は 25 と肥満傾向を示したため、これが乾癬患者の血清尿酸値の上昇に関連した可能性が考えられる。

本研究の限界は、尿中尿酸が測定されておらず、高尿酸血症のタイプ分け（尿酸生成過剰型か尿酸排泄低下型か）ができていないことである。また、メタボリックシンドロームとの関連で必要な腹囲、血糖、コレステロール、血圧が測定されていなかった。いずれも今後の検討課題と考えられる。

2017 年 12 月 25 日に開催された学位論文審査会において、申請者は当該領域の十分な知識を有していることが確認された。学位申請にあたり、書類・論文などの必要な要件を満たしており、学位授与に値すると判断した。